

大学ICT推進協議会 (AXIES) 2024年度年次大会を終えて

Post Conference Report on AXIES 2024 Annual Meeting

AXIES 2024 年度 年次大会大会委員長・京都大学学術情報メディアセンター教授・京都大学情報環境機構長 岡部 寿男

General Chair of AXIES 2024 Annual Meeting, Yasuo Okabe, Professor of Kyoto University

ORCID ID : <https://orcid.org/0000-0003-0825-2256>

1. はじめに

去る 2024 年 12 月 10 日から 12 日にかけて、奈良県コンベンションセンターにおいて、大学 ICT 推進協議会 (AXIES) の 2024 年度の年次大会を 2,000 名を超える参加者をお迎えし、会場の収容能力の関係で多少ご不便をおかけする場面もございましたが、大きなトラブルもなく無事に 3 日間の会期を終えることができました。

基調講演を引き受けてくださった先生方をはじめ、ご参加いただいた皆様、協賛・出展いただいた企業・団体の皆様、プログラム委員会および実行委員会の皆様、運営を支えてくださった学生アルバイトの方々、AXIES 事務局の皆様を含め、本大会にご協力いただきました全ての関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

今回の年次大会は京都大学が担当校を務めましたが、開催地はあえて京都府内ではなく、奈良県奈良市を選定いたしました。これまでの年次大会は担当校の所在地での開催が一般的でしたが、近年この時期の京都市内はオーバーツーリズムの影響が顕著であり、また年次大会が規模を拡大し続けていることで会場の選定が難しくなっている状況を考慮し、周辺の府県を含めて検討した結果です。参加者の中には修学旅行以来久しぶりに奈良を訪れたと喜ばれる方もいらっしゃり、好評を博したのではないかと自負しております。2020 年 4 月に開業したばかりの奈良県コンベンションセンターの施設が新しく、快適であった点も評価いただけたようです。

以下では AXIES 2024 年度年次大会の準備およびプログラムを振り返り、今後の方向性について考察します。

2. 大会の準備にあたって

本大会の準備にあたっては、従来の方式にこだわらず、いくつかの新たな取り組みを実施しました。

第一は、担当校の負担軽減を目的とし、運営への直接関与を比較的少人数の大学スタッフに限定したことで

す。前回京都大学が担当した AXIES2016 では、情報環境機構の教員に加えて事務職員・技術職員が総動員されていましたが、しかし、この方式では、担当校になれる大学が限られてしまいます。過去には同様の体制で実施されることが多かったのですが、理事会での議論を経て、今回は担当校から実行委員会に参加する数名の教員以外は原則として稼働しない方針を採りました。さらに京都地区および奈良地区の委員として地域の大学の方々にもご協力いただきつつ、実際の業務については積極的に外部業者へ委託することとしました。

第二に、出展企業のご意見を積極的に運営に反映させるため、賛助会員から 2 名に実行委員会へのご参加をお願いしました。この体制により、大胆な改革が可能になりました。具体的には参加費を大幅に引き下げ、その一方で出展費を協賛費と統合し値上げをお願いしました。外部委託など支出増を前提に収支構造を大きく見直すことで、参加費を下げた大学関係者の参加増を目指しました。この方針は結果として成功したと考えています。ただし、協賛費の値上げ告知が遅れ、前年度の予算では対応が難しいとのご指摘もいただきました。この点につきましては謙虚に受け止め、次年度以降に活かしてまいります。

第三は、対面を主軸としつつ、オンライン配信やアーカイブを併用したハイブリッド運営の導入です。大学 ICT 推進協議会としては各種活動のオンライン化を推進する一方、年に一度の大会は対面で交流を深める貴重な機会であるとの方針を踏まえ、基本的には対面を中心とする従来の形式を維持しました。一方、これまで展示会場にいる企業関係者が全体会に参加できない問題がありましたが、今回は展示会場へ全体会を中継することで解決を図りました。また、一般セッションを収録し後日アーカイブで公開することといたしました。

3. 大会プログラム

3.1 概要

本大会は、基調講演 2 件、企画セッション 22 件、一

般講演 128 件(口頭発表 107 件, ポスター発表 21 件), および 106 機関(賛助会員 95 社, 正会員 11 機関)による展示で構成されました。各会場とも非常に盛況で、企画セッションの一部では満席となり、急遽、現地参加者向けに中継を実施いたしました。その際、ご不便をおかけしました参加者の皆様には、深くお詫び申し上げます。

3. 2 全体会と基調講演

本大会の新しい取り組みの一つとして、全体会を第 1 日と第 2 日に分け、プレナリー的な時間を分散させました。

第 1 日の全体会では、大会委員長挨拶、AXIES 活動紹介、年次大会概要紹介に続き、京都大学理事・副学長(情報基盤・図書館担当)の引原隆士先生から、「大学の研究データ OA から何を生み出せるのか」と題して基調講演をいただきました。講演では、世界的に加速する研究環境の変化に対し、受動的に対応するのではなく、能動的に新しい研究環境を創出することの重要性が強調されました。この変化に対応するため、我が国で 2025 年度から本格的に開始される公的資金による研究成果およびその根拠データのオープンアクセス化が行われること、研究者の権利保護と研究成果のプライオリティ確保という視点からの検討が必要であるとの指摘もありました。加えて、京都大学における研究データマネジメントに関する具体的な取り組みが紹介され、大学における研究データのオープンアクセス化が持つ可能性や課題について、具体的かつ実践的な観点から論じられました。

第 2 日の全体会では、会長挨拶に続き、来賓として文部科学省高等教育局専門教育課の今川新悟専門官からご挨拶いただきました。ついで、EDUCAUSE President & CEO の John O'Brien 博士に「AI and the Future of Digital Transformation in Higher Education」と題して基調講演をいただきました。この講演では、特に生成 AI を中心とする人工知能への関心の高まりが高等教育をどのように変えているのか、また今後どのように変わっていくのかについて、EDUCAUSE の調査結果と O'Brien 博士自身の知見が共有されました。EDUCAUSE は長年にわたり「デジタルトランスフォーメーション」を重要課題として位置付けており、AI とデジタルトランスフォーメーションがどのように連携するのか、またそれを高等教育が将来に向けてどのようにリードしていけるかが議論されました。引き続き、2023 年度年次大会の論文賞等の表彰式が行われました。

3. 3 企画セッションと一般講演

企画セッションは、AXIES の全 16 部会が企画する 18 セッションのほか、国際連携室から EDUCAUSE 年次コンファレンス 2024 参加報告、国立大学法人等情報連絡協議会から事務用業務システム改善事例発表、会長企画「賛助会員が AXIES に期待するもの ~会長と語ろう!~」、実行委員会企画の計 22 セッションが開催されました。

恒例となっている会長企画セッションは第 3 日の午前に開催され、賛助会員の方々から、本大会の運営について数多くの忌憚ないご意見を直接いただきました。さまざまな制約の中ですべてのご要望に応えることは難しいながらも、次年度以降の運営に引き継がせていただきます。

実行委員会企画では、「AXIES2024 NOC チーム発表: イベント NW で支える持続可能な人材育成」と題して、本大会の会場ネットワークの構築と運用を担って下さった NOC (Network Operations Center) チームの方々にお話しをいただきました。NOC チームには、若者に経験を積んでいただく機会を兼ねて関西の AXIES 会員大学から学生の方々にアルバイトで加わっていただいていたしましたが、現場の生の声をきかせていただきました。

一般セッションとして、3 日間 23 セッションに分かれて行われた口頭発表と 107 件と、初日の夕刻にコアタイムを設定したポスター発表 21 件が行われました。口頭発表セッションは最大 3 並列としましたが、聴きたい発表が重なってしまうことは避けがたいため、ビデオ収録し 1 月中旬から 2 月末までのアーカイブ配信を行いました。

3. 4 企業展示・出展者セミナー・ランチョンセミナー

本大会では、出展企業等が提供されている高等教育機関向けソリューションや活動を紹介する、106 機関(賛助会員 95 社, 正会員 11 機関)からのご出展を、121 のブースで実施しました。スペースの制約の下で年々増加するご出展の希望に対応すべく、展示会場前のホワイエのスペースを活用した小サイズブースのコリドー協賛枠を新たに設けるなどしてスペースを確保に努めましたが、出展希望のすべてには対応できずご迷惑をおかけしました。

正会員・協賛セミナーは 19 件、ランチョンセミナーは 16 件と、こちらも例年通り多くの企画をいただき盛況でした。

3. 5 情報交換会

第 2 日の夜に、大会会場から徒歩 10 分ほどの距離に

ある奈良ロイヤルホテルにおいて、情報交換会を開催いたしました。728 名の方にご参加いただき、例年以上の盛り上がりでした。地元の酒蔵などにご協力をいただき、古くからお酒づくりが盛んだった奈良の地酒を紹介させていただきました。昼間のセッション会場では会えなかった方との交流の機会となったとお声をいただいています。

4. おわりに

みなさまの多大なるご協力により、大会を予定通り終えることができましたが、反省すべき点や改善すべき点も浮かび上がっています。一つだけ例を挙げますと、今回はご要望に応じて託児室を用意しましたが、ぎりぎりでの対応となったため参加者のみなさまへの周知が遅れ十分に活用できませんでした。参加される大学教職員や企業の方々なるべくご負担なくご参加いただけるよう、参加申込の時点でアナウンスできていればよかったと思います。その他、運営において数多くのトラブルがありました。この場を借りてお詫び申し上げます。

2025 年は北海道大学が担当校となり札幌で開催されることがアナウンスされました。また、みなさまとお目にかかれることを楽しみにしております。

2025 年 3 月 31 日



年次大会の CIO 昼食会にて、岡部寿男 先生

【著者略歴】

岡部寿男

1986 年京都大学工学部情報工学科卒。1988 年京都大学大学院工学研究科修士課程情報工学専攻修了。同年京都大学工学部助手採用。1994 年京都大学大型計算機センター助教授、1998 年同大学院情報学研究科助教授を経て、2002 年より同学術情報メディアセンター教授。博士（工学）。専門はコンピュータネットワーク。2014・2015 年度ならびに 2020 年度～2024 年度京都大学学術情報メディアセンター長。2024 年 10 月より京都大学情報環境機構長。2020 年より本会理事を務める。近畿総合通信局長表彰、文部科学大臣表彰・科学技術省（開発部門）、情報処理学会功績賞、情報セキュリティ文化賞、各賞受賞。情報処理学会フェロー、電子情報通信学会フェロー、日本工学会フェロー。日本ソフトウェア科学会、システム制御情報学会各会員。IEEE Member, ACM Member